

「エイジング・イン・プレイス」の実現に向けた高齢者住宅の在り方に関する研究

ライフデザイン学部人間環境デザイン学科

水村 容子 教授 Hiroko Mizumura



研究概要 高齢者の生活をより長期的かつ生活全般に視座を拡げて捉え、健康期から要介護期、さらには終末期までの居住継続性が確保された住環境のあり方を検討

研究シーズの内容

この研究においては、研究対象を日本のサービス付き高齢者住宅とスウェーデンの安心住宅・シニア型コレクティブハウスに設定しています。いずれも高齢者専用の住宅であり、①高齢者の身体状況を考慮したアクセシブルな住戸計画、②専用居室と共用空間による構成、③相談見守り担当の職員配置（注：シニア型コレクティブは住民同士による共助）といった共通条件を持っています。住宅の管理者・住民に対して、住民同士のコミュニティの状況、共用空間の利用実態、居住の継続性などについて、アンケートおよびヒアリング調査を実施しました。

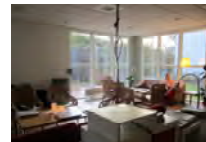
本稿においては、スウェーデンで実施した4つのシニア型コレクティブハウス Sockenstugan、Färdknäppen、Sjöfarten、Dunderbacken への調査結果を報告します。いずれの住宅においても、コミュニティと呼ばれる食事の準備や住宅の維持管理活動を通じて、コミュニティの創出が確認されました。また、最も新しく設置された Dunderbacken を除いた3住宅では、看取りや認知症高齢者の住民同士での支援実績が存在しており、身体の障害・内臓疾患への対応は可能であるが、認知症への対応は課題が多く存在する状況が確認されました。



Sockenstugan の共用食堂と
アウトリビング



Färdknäppen の共用食堂と
共用部平面図



Sjöfarten, Dunderbacken の
共用食堂とリビング

研究シーズの応用例・産業界へのアピールポイント

サービス付き高齢者住宅や有料老人ホームを開設・設置する場合の平面計画の考え方への一助となります。

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

スウェーデン「住み続ける」社会のデザイン、水村容子著、彰国社